

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】国語・文学国語		単位数	2 単位	履修年次	2 年
目 標	・社会生活に必要な国語の知識を身に付け、さらに文学作品を読む中でより高度で専門的な知識を身につける。 ・考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ・言語の価値への認識を深め、読書に親しみ、文学作品を通して他者や社会に関わる態度を養う。					
使 用 教 材	【教科書】新編 文学国語（大修館書店） 【副教材】新訂国語図説五訂版（京都書房）、国語辞典第十一版（旺文社）、マナトレ（ベネッセ） 新常用漢字必携パーフェクトクリア（尚文出版）					
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	応用的な国語の知識を身につけ、文学作品の中で適切に読み取ることができ、日本の文学作品に親しんだり理解したりしている。	筋道を立てて論理的に考えることができる。また、豊かに感じたり想像したりすることができ、それを表現し、自分の思いや考えを伝えるとともに、相手の思いや考えを適切に受け取ることができる。	文学作品を通して積極的に他者や社会に関わり、その中でもものの見方や感じ方、考え方を深めている。また、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として、より高度な表現力を身につけようとしている。			
評 価 方 法	目標をふまえ、「主体的に学習に取り組む態度」は、日々の授業への取り組みを中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査や基礎力診断テストを中心に、提出物の状況や小テストへの取り組み等、授業に取り組む姿勢や態度も含め、総合的に評価する。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	古典の世界 1 星取り 兄の飴食ひたること 山月記		・文語のきまり、古典特有の表現などについて改めて確認する。 ・内容や文章の構成、展開などについての的確に捉え、味わう。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現について理解を深める。 ・登場人物の主張や心情を適切に読み取り、理解する。			
2 学期	古典の世界 2 かぐや姫の昇天 月やあらぬ 小説を楽しむ（一） 社会に生きる より数編		・文語のきまり、古典特有の表現などについて改めて確認する。 ・内容や文章の構成、展開などについての的確に捉え、味わう。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現について理解を深める。 ・登場人物の主張や心情を適切に読み取り、理解する。			
3 学期	古典の世界 3 より数編 表現を味わう より数編		・文語のきまり、古典特有の表現などについて改めて確認する。 ・内容や文章の構成、展開などについての的確に捉え、味わう。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現について理解を深める。 ・登場人物の主張や心情を適切に読み取り、理解する。			
学 習 上 の 留 意 点	・授業の準備をしっかりしてください。 ・課題は期日を守って提出してください。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】地理歴史・歴史総合		単位数	2 単位	履修年次	2 年
目 標	・現代世界の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、様々な情報を調べまとめる技能を身につける。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象を考察し、それらを説明する力や議論する力を身につける。 ・我が国の歴史に対する愛情と、他国や他国の文化を尊重する姿勢を身につける。					
使 用 教 材	【教科書】わたしたちの歴史 日本から世界へ （山川出版社） 【副教材】わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート（山川出版社）					
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 歴史に対する多面的・多角的な考察や理解を通して、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さを深めている。			
評 価 方 法	目標をふまえ、すべての観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について日々の学習活動を基本として評価を行う。単元ごとに授業内容に対する理解度を確認しながら意見交流等を行い、意欲的に学習に取り組んでいるか、興味関心を持つことが出来ているかを評価する。また定期考査、小テストの点数やレポート、授業ノート、整理ノート等の提出物の状況などもふまえて総合的に判断し評価する。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	1. 近代化と私たち ・近代化への問い ・18 世紀～20 世紀初頭の世界 ・日本の明治維新と帝国主義		18 世紀から 20 世紀初頭の世界と日本の歴史を学ぶ。この時代は産業社会と国民国家の形成を背景に、人々の生活や社会のあり方が大きく変わった時代である。この学習の中から、それらの事象が現代世界のどのような問題とつながっているのかを理解する。			
2 学期	2. 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・大衆化への問い ・第 1 次世界大戦と日本 ・国際協調から独裁勢力の台頭 ・第 2 次世界大戦と戦後国際秩序		20 世紀から 1950 年代にいたる世界の歴史を学ぶ。この時代は、政治・経済・文化など様々な面で国際的な結びつきが強まって、国と国の関係性が変化し、人々の生活や社会のあり方が変化した時代である。この学習を通じて、それらの事象が現代世界とどのような問題とつながり、私たちはどのように対応していったらいいのかを考える。			
3 学期	3. グローバル化と私たち ・グローバル化への問い ・冷戦の展開と日本 ・冷戦後の地域紛争と地域統合 ・現代世界と日本の諸課題		1950 年代以降の世界の歴史を学ぶ。この時代は科学技術の革新を背景に、人・商品・資本・情報が国境を越えて流動化し、人々の暮らしや社会のあり方が更に変化した。そこから私たちの国や世界は、一体どこに向かって進んでいくのかを考える。			
学 習 上 の 留 意 点	・私たちを取り巻く様々な社会問題に興味関心を持ち日々の学習に意欲的に取り組んでください。 ・与えられた課題は、期日を守り必ず提出してください。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】保健体育・体育		単位数	2 単位	履修年次	2 年
目 標	・運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高める。 ・自己の状況に応じて、体力の向上を図ることができるようになる。 ・公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、生涯にわたり豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身につける。					
使 用 教 材	【教科書】現代高等保健体育 改訂版（大修館） 【副教材】最新スポーツルール(大修館)・現代高等保健体育ノート（大修館）					
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間と考えたことを他者に伝える力を身につけている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。			
評 価 方 法	授業への取り組み方を「学びに向かう力・人間性等」、学習内容を高めるための工夫を「思考力・判断力・表現力」、運動の実技試験や授業中での技術発揮（運動）の様子を「知識・技能」「表現力」として評価をし、それらを総合的に評価する。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	体づくり運動 ・集団行動 ・新体力テスト 体育理論 ・運動やスポーツの技能と体力について 選択① ・器械体操 ・陸上競技 ・武道 ・ダンス		・規律、規範を守ることや、責任を持った行動など、集団生活の基礎を身につける。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する。 ・自己に適した技を高めて、演技することができる能力を身につけます。 ・各種目特有の技能を高める。 ・基本動作から得意技や連絡技・変化技を用いた攻防ができるようにする。 ・楽しさや喜びを味わい、表現や踊りを通して交流できるようにする。 ・運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していることを学ぶ。			
2 学期	選択② ・球技（ハンドボール、卓球、サッカー、テニス、バドミントン） 1年生の選択Bで選択しなかった競技		・筋力や筋持久力を向上させ 集団での行動力や仲間と協力して楽しむ態度を養います。 ・球技では基礎・基本の技術を習得し、仲間と連携・協力して試合を楽しめるようになる。			
3 学期	体育理論 ・運動やスポーツのトレーニングの仕方 特色種目 ・持久走		・運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり、その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法、課題の設定方法などがあることを学ぶ。 ・生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくために、スポーツへのかかわり方の特徴や条件を理解する。 ・持久走では心肺機能を中心とした基礎体力の向上と、個人目標を設定し達成感を味わう。			
学 習 上 の 留 意 点	・体操服等の準備を忘れずにしてください（見学時も基本的には同様です）。 ・活動場所（体育館、グラウンド、武道場等）への集合を、時間厳守で行ってください。 ・授業を見学するときは、必ず事前に担当教員に申し出てください。（理由等） ・授業時の怪我防止（安全確保）のため、授業でのルールと指示をきちんと守ってください。					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】保健体育・保健		単位数	1	単位	履修年次	2	年
目 標	・個人及び社会生活における健康や安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につける。							
使 用 教 材	【教科書】 新高等保健体育（大修館） 【副教材】 新高等保健体育ノート（大修館）							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度					
	個人生活及び社会生活における健康や安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身につけている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身につけている。					
評 価 方 法	学習状況（授業態度・参加意識）等で、「思考力・判断力・表現力」と「学びに向かう力・人間性等」を、定期考査や提出物（ノートやプリント）等で「知識・理解」と「思考力・判断力・表現力」を評価し、それらを総合的に評価する。							
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い				
1 学期	生涯を通じる健康 ①生涯の各段階における健康 ・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択 ・結婚生活、妊娠、出産と健康 ・家族計画 ・加齢と健康			・生涯の各段階においては、健康問題に関わる様々な課題があり、それに対応して個人や社会に求められる能力や機能なども異なっている。生涯にわたって健康に生きていくため、生涯の各段階と健康とのかかわり理解し、生涯を通じて健康に生きていく力を身につける。				
2 学期	②高齢社会と労働と健康 ・高齢社会に対応した取り組み ・働くことと健康 ・労働災害の防止 ・働く人の健康づくり			・社会生活における健康の保持増進には、個人の力だけではなく、個人を取り巻く自然環境や社会の制度や活動などが深く関わっている。このため、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康について学び、生涯を通じて健康に過ごすことができる環境を作ることができる力を身につける。				
3 学期	健康を支える環境づくり ①環境と健康 ・環境の汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ②環境と食品の保健 ・環境保健にかかわる活動 ・食品保健にかかわる活動 ③保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 ・保健制度と医療医薬品とその健康 ・様々な保健活動と健康に過ごせる環境作り			・保健制度や医療制度のしくみや活用のしかたを学び、生涯を通じて健康を保持増進することができる力を身につける。				
学 習 上 の 留 意 点	・教科書、ワーク（ノート）を、忘れずに準備してください。 ・授業に積極的に参加し、ノートをしっかりと整理しましょう。（ノートは提出してもらいます）							

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】外国語・コミュニケーション英語 II	単位数	2	単位	履修年次	2	年
目 標	・ 相手が伝えようとすることを理解し、自分が伝えたいことを表現できるようになる。 ・ 主体的に言語活動を行うことの喜びを体験し、異文化理解に努める。						
使 用 教 材	【教科書】 Amity English Communication II （開隆堂） 【副教材】 英文法エッセンシャルノート（増進堂）、Listening Box Pre & I（啓林館）、自主教材						
評価の観点 ・ 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	日常生活の身近な話題について読んだり聞いたりして必要な情報や要点を把握することができ、英語の学習を通じて言語そのものやそれを運用する技術やそれを身につけるとともに、その背景にある文化などを理解することができる。	関心のある事柄や自分に関する簡単な質問に対して、相手からの質問に適切に応答したり、自ら質問し短い会話ができる。自分の考え、気持ちなどをまとめ、理由や根拠をつけて、伝えたりすることができる。		他者とのコミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりすることに意欲的に取り組み、またペアワークやグループワークでの学習を積極的に進めることができる。			
評価方法	・ 英語を通して相手の伝えたいことやその文化的背景などを理解できるか（知識・技能） ・ 英語を用いて自分の伝えたいことを表現できるか（思考・判断・表現） ・ 他者とのコミュニケーションや学習に積極的に取り組んでいるか（主体的に学習に取り組む態度） 以上3つの観点を、普段の授業・提出物、定期考査、各種テスト等で確認し総合的に評価します。						
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い				
1 学期	Lesson 1 Okinawa Lesson 2 The History of Japanese Food		・ 日常生活の身近な話題について基礎的な会話表現に慣れ、自分のことを伝え相手のことが理解できるよう学習します。 ・ 文法事項の整理を通して身近な話題についてよりスムーズなコミュニケーションが取れるように学習します。				
2 学期	Lesson 3 Volunteer Work Lesson 4 Gacha-gacha		・ 日常生活の身近な話題について基礎的な会話表現に慣れ、自分のことを伝え相手のことが理解できるよう学習します。 ・ 文法事項の整理を通して身近な話題についてよりスムーズなコミュニケーションが取れるように学習します。				
3 学期	Lesson 5 Interesting Aquariums Lesson 6 The Relay of Ahmed's Life		・ 日常生活の身近な話題について、相手に正しく情報を伝えられる、相手からの情報を正しく理解できるよう学習します。 ・ 文法事項の整理を通して身近な話題についてよりスムーズなコミュニケーションが取れるように学習します。				
学 習 上 の 留 意 点	・ 言語活動（声に出して読む、ペアワーク、発表等）への積極的な取り組みが必要です。「理解にとどまるのではなく、積極的な「表現」につなげていくように学習します。個人端末を通じてファイルを参照したり提出することなども必要になります。						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】理科・物理基礎（機械科・電子機械科）		単 位 数	2	単位	履修年次	2	年次
目 標	工業系科目の土台として基礎基本的な知識、技能を高める。また、日常生活や社会との関連を図りながら、力学や熱力学、電気などへの関心を高め、目的意識をもって観察・実験を行う。さらに、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 ・物理学と日常生活や社会との関連についての重要性に気づき、物理学の法則と実際の運動との関係性を判断する力を身につける。 ・物理学的に探究する能力と態度を育成し、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・身近な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、主体的に解決する方法を見出す能力と態度を身につける。 ・身近に見られる物理現象の背後に原理・法則が存在することを理解し、それらを日常生活や社会の中で活用する能力と態度を身につける。							
使用教材	【教科書】新編 物理基礎（数研出版） 【副教材】改訂 プログレス 物理基礎							
評価の観点 ・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	・観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・科学的視点からの実験方法や実験結果の考察をする力を身につけている。		・物理的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断することができる。					
評価方法	「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」については日々の授業態度や観察、実験などの取り組み・提出物の状況を中心に、「知識・技能」については、基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを5回の定期考査やノート・提出物等を中心に、それぞれ総合的に評価する。							
学 期	学習内容				学習のねらい			
1 学 期	○力と運動 1. 物体の運動 速さと速度／ 速度の合成・分解と相対速度／ 加速度と等加速度運動／ 2. 落下運動 落下運動／ 放物運動 3. 力のつり合い 力／ 力の合成・分解と力のつり合い 4. 運動の法則 運動の3法則／ 抵抗力を受ける運動 ○エネルギー 1. 力学的エネルギー 力がする仕事／ 運動エネルギーと位置エネルギー／ 力学的エネルギー保存の法則				・物理学が拓く世界について知る。 ・速度、加速度といった運動を表現する諸量の定義を理解し、運動を表現、分析できるようになる。 ・落下運動などの日常に起こる物体の運動を通して、運動状態と力の関係を知る。 ・力についての理解を深め、合成・分解の手法を用いて、運動の解析に適用できる。 ・運動の3法則を理解し、運動方程式を用いて、運動の諸量や力を求めることができる。 ・力学的エネルギー、仕事、仕事率といった諸量の定義を理解し、エネルギーと仕事の関係を理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則が成り立つ状況を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。			

2 学 期	2. 熱とエネルギー 熱と温度／ 熱容量と比熱／ 物体の熱膨張／ エネルギーの変換と保存／ 不可逆変化と熱力学第二法則／ 気体の圧力 ○波動 1. 波の性質 波とその要素／ 横波と縦波／ 波の強さ／波の重ね合わせ／ 波の反射 2. 音波 音波の性質／ 弦の振動／ 気柱の振動	・温度や熱に関わる諸量の定義を理解し、熱現象の法則性について知る。 ・内部エネルギーと熱力学第1法則について理解する。 ・波の要素や波特有の現象について理解し、縦波と横波を、日常の現象にあてはめて説明できる。 ・波動現象に共通する性質と法則性について理解し、応用できる能力をつける。 ・音に関する諸現象を知り、法則化し、応用できる能力をつける。 ・気柱や弦の振動の規則性を用いて、波の諸量を計算できる。
3 学 期	○電気 1. 静電気と電流 静電気／ 電流と抵抗／ 電気エネルギー 2. 電流と磁場 磁場／ モーターと発電機／ 交流と電磁波 3. エネルギーとその利用 太陽エネルギーと化石燃料／ 原子力エネルギー ○物理学が拓く社会	・電荷や帯電、電流といった電気現象を、原子の構造を通して理解する。 ・電流や電気エネルギーにかかわる基本法則や回路の基礎を理解し、諸量を計算できる。 ・電場や磁場の定義や電磁誘導の現象について理解し、交流の発生とモーターや発電機への応用について知る。 ・化石燃料や原子力のエネルギー利用における基礎を理解し、成果と課題を正しく認識する。 ・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。
学 習 上 の 留 意 点	・教科書とプリントを中心にした講義形式で行います。 ・物理を身近に感じ、理解を促すためになるべく多くの演示実験を取り入れます。 ・積極的に授業に取り組む態度、授業プリントをきちんと整備することが大切です。	

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】理科・物理基礎（建築デザイン科）	単位数 3 単位	履修年次 2 年次
目 標	工業系科目の土台として基礎基本的な知識、技能を高める。また、日常生活や社会との関連を図りながら、力学や熱力学、電気などへの関心を高め、目的意識をもって観察・実験を行う。さらに、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 ・物理学と日常生活や社会との関連についての重要性に気づき、物理学の法則と実際の運動との関係性を判断する力を身につける。 ・物理学的に探究する能力と態度を育成し、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・身近な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、主体的に解決する方法を見出す能力と態度を身につける。 ・身近に見られる物理現象の背後に原理・法則が存在することを理解し、それらを日常生活や社会の中で活用する能力と態度を身につける。 ・問題演習を行い、知識の定着を図る。		
使 用 教 材	【教科書】新編 物理基礎（数研出版） 【副教材】改訂 プログレス 物理基礎		
評価の観点・評価規準	知識・技能 ・観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・科学的視点からの実験方法や実験結果の考察をする力を身につけている。	思考・判断・表現 ・物理的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断することができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に関わり、科学的に探究しようとする。
評 価 方 法	「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」については日々の授業態度や観察、実験などの取り組み・提出物の状況を中心に、「知識・技能」については、基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを5回の定期考査やノート・提出物等を中心に、それぞれ総合的に評価する。		
学 期	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	○力と運動 1. 物体の運動 速さと速度／ 速度の合成・分解と相対速度／ 加速度と等加速度運動／ 2. 落下運動 落下運動／ 放物運動 3. 力のつり合い 力／ 力の合成・分解と力のつり合い 4. 運動の法則 運動の3法則／ 抵抗力を受ける運動 ○エネルギー 1. 力学的エネルギー 力がする仕事／ 運動エネルギーと位置エネルギー／ 力学的エネルギー保存の法則	・物理学が拓く世界について知る。 ・速度、加速度といった運動を表現する諸量の定義を理解し、運動を表現、分析できるようになる。 ・落下運動などの日常に起こる物体の運動を通して、運動状態と力の関係を知る。 ・力についての理解を深め、合成・分解の手法を用いて、運動の解析に適用できる。 ・運動の3法則を理解し、運動方程式を用いて、運動の諸量や力を求めることができる。 ・力学的エネルギー、仕事、仕事率といった諸量の定義を理解し、エネルギーと仕事の関係を理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則が成り立つ状況を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。	

2 学 期	2. 熱とエネルギー 熱と温度／ 熱容量と比熱／ 物体の熱膨張／ エネルギーの変換と保存／ 不可逆変化と熱力学第二法則／ 気体の圧力 ○波動 1. 波の性質 波とその要素／ 横波と縦波／ 波の強さ／波の重ね合わせ／ 波の反射 2. 音波 音波の性質／ 弦の振動／ 気柱の振動	・温度や熱に関わる諸量の定義を理解し、熱現象の法則性について知る。 ・内部エネルギーと熱力学第1法則について理解する。 ・波の要素や波特有の現象について理解し、縦波と横波を、日常の現象にあてはめて説明できる。 ・波動現象に共通する性質と法則性について理解し、応用できる能力をつける。 ・音に関する諸現象を知り、法則化し、応用できる能力をつける。 ・気柱や弦の振動の規則性を用いて、波の諸量を計算できる。
3 学 期	○電気 1. 静電気と電流 静電気／ 電流と抵抗／ 電気エネルギー 2. 電流と磁場 磁場／ モーターと発電機／ 交流と電磁波 3. エネルギーとその利用 太陽エネルギーと化石燃料／ 原子力エネルギー ○物理学が拓く社会	・電荷や帯電、電流といった電気現象を、原子の構造を通して理解する。 ・電流や電気エネルギーにかかわる基本法則や回路の基礎を理解し、諸量を計算できる。 ・電場や磁場の定義や電磁誘導の現象について理解し、交流の発生とモーターや発電機への応用について知る。 ・化石燃料や原子力のエネルギー利用における基礎を理解し、成果と課題を正しく認識する。 ・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。
学 習 上 の 留 意 点	・教科書とプリントを中心にした講義形式で行います。 ・物理を身近に感じ、理解を促すためになるべく多くの演示実験を取り入れます。 ・積極的に授業に取り組む態度、授業プリントをきちんと整備することが大切です。	

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】理科・化学基礎		単位数 2 単位	履修年次 2 年
目 標	1. 「化学」は、物質を調べ、つくり出し、利用するための基礎となる学問であること、さらに化学が人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。 3. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解するとともに日常生活や社会と関連付けて考えることができるようになる。 4. 上記1～3の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。			
使 用 教 材	【教科書】新編 化学基礎 (東京書籍) 【副教材】ニューアチーブ 化学基礎 (東京書籍)			
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・物質の探究をするために物質の構造・状態・化学結合など化学的な基礎知識を身につけている。 ・さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験の技能を身につけている。	・学習内容と具体的物質や社会との関連を見だし総合的に考察し、それらを必要に応じて活用して的確に表現できる。 ・実験の結果から、科学的に考察し表現することができる。	・物質の性質に関心を持ち、原子の構造や化学的性質について意欲的に学習に取り組むことができる。 ・知識を活かして、日常生活における化学的な現象について意欲的に探究することができる。	
評 価 方 法	目標を踏まえ、定期考査などの各種テストや日々の授業への取り組み、また実験や調べ学習に対する取り組む姿勢、提出物の状況や小テストへの取り組み等を総合的に判断して評価する。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	第1編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素 第2編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表		・私たちの生活は、化学に密接に関連していること知る。 ・身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 ・物質を構成する基本粒子について学ぶ。	
2 学期	第2編 物質の構成 2 章 化学結合 第3編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式 2 章 酸と塩基		・身の回りにあるすべての物質が原子、分子、イオンという粒子からなることを理解し、イオン結合や共有結合について学ぶ。 ・原子・分子を集団として扱う物質の考え方について学ぶ。 ・身近なところで多く利用されている酸と塩基について、中和反応やその量的関係について学ぶ。	
3 学期	第3編 物質の変化 3 章 酸化還元反応 化学が拓く世界		・物質の燃焼や、金属の溶解などの化学反応は、電子の移動を伴う酸化還元反応である。酸化還元反応を電子の授受に基づいて理解し、電池や電気分解についても学ぶ。 ・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。	
学 習 上 の 留 意 点	・実験に対しても意欲的に取り組み、なぜ現象が起こるかを考えることが大切です。実験考察や授業を振り返りまとめることで化学について探究しましょう。			

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【必】理科・生物基礎		単位数 2 単位	履修年次 2 年
目 標	1. 生物や生命の多様性について学習し、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2. 遺伝子、健康、環境など私たちの生活に身近な内容を学習することで、生物や生命に対する興味・関心を高める。 3. 生物や生命現象の中から課題を見出し、観察、実験を通して探究する姿勢を身につける。			
使 用 教 材	【教科書】新編 生物基礎 (東京書籍) 【副教材】ニューアチーブ 生物基礎 (東京書籍)			
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・生物のからだの特徴について観察や実験などを通して理解している。 ・さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験を行うことができる。	・生物や生物現象、また生物をとりまく環境について自らの考えを的確に表現することができる。 ・観察や実験を行い、それらを科学的に探究することができる。	・生物や生物現象について興味を持つことができる。 ・学習内容が自分の体や生活・社会に関わる身近な問題であると理解し、新聞やテレビ報道の内容に関心を持つことができる。	
評 価 方 法	目標を踏まえ、定期考査などの各種テストや日々の授業への取り組み、また実験や調べ学習に対する取り組む姿勢、提出物の状況や小テストへの取り組み等を総合的に判断して評価する。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	1 編 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 生命活動とエネルギー 2 編 遺伝子とそのはたらき 1. 生物と遺伝子 2. 遺伝情報の分配		・生物は多様でありながら共通性があることを知り、細胞について学ぶ。 ・生命活動に必要なエネルギーは、呼吸や光合成から得ていることを理解し、細胞のはたらきについて学ぶ。 ・DNAについて学ぶ。 ・細胞分裂時の遺伝子の配分について学ぶ。	
2 学期	2 編 遺伝子とそのはたらき 3. 遺伝情報とタンパク質の合成 3 編 生物の体内環境の維持 1. 体内環境の維持 2. 体内環境を保つしくみ 3. 体内環境を守るしくみ		・体内でどのようにタンパク質が合成されているかを学ぶ。 ・心臓、肝臓、腎臓のはたらきによる体内環境の維持について学ぶ。 ・自律神経やホルモンの調節作用と体内環境の維持の関係について学ぶ。	
3 学期	4 編 生物の多様性と生態系 1. 植生の多様性と遷移 2. バイオームとその分布 3. 生態とその保全 生物が拓く世界		・生態系における植物の役割について学ぶ。 ・地球規模での植物の分布について学ぶ。 ・エネルギーと物質の循環、自然界のバランスについて学ぶ。 ・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。	
学 習 上 の 留 意 点	実験、観察には積極的に取り組みましょう。レポートなどの提出期限は守りましょう。			